

令和2年度 卒業論文

コンテナ技術を用いた教育計算機システム
の構築



琉球大学工学部工学科知能情報コース

175733E 氏名 宮平 賢

指導教員：河野 真治

目次

第1章	はじめに	1
1.1	システム管理チーム	1
1.2	論文の構成	1
第2章	技術概要	2
2.1	仮想化	2
2.1.1	ホスト型	2
2.1.2	ハイパーバイザー型	3
2.1.3	コンテナ型	3
2.2	KVM	4
2.3	Docker	4
2.3.1	Docker Registry	5
2.4	Podman	5
2.5	Singularity	5
2.6	Ceph	5
2.7	Ansible	5
2.8	Slurm	5
2.9	GitLab	5
2.10	rsnapshot	5
2.11	Akatsuki	5
2.12	ie-virsh	5
第3章	教育計算機システムの構築	6
3.1	旧システム	6
3.2	新システム	6
3.2.1	Ceph	6
3.2.2	Podman	6
3.2.3	ie-podman	6
3.2.4	Singularity	6
3.2.5	Slurm	6

第 4 章	教育計算機システムの管理	7
4.1	FileSystem の管理	7
4.2	Podman	7
4.2.1	ie-podman の利用方法	7
4.3	Singularity と Slurm を利用した演習	7
第 5 章	まとめ	8
5.1	今後の課題	8

目 次

2.1	ホスト型	2
2.2	ハイパーバイザー型	3
2.3	コンテナ型	3
2.4	Docker	4
2.5	Podman	5

表 目 次

ソースコード目次

第1章 はじめに

1.1 システム管理チーム

1.2 論文の構成

第2章 技術概要

本章では、本研究で使われる技術、本コースで利用しているサービスについて概要を説明する。

2.1 仮想化

仮想化はコンピュータの CPU やメモリ、ディスクなどハードウェアのリソースを分割又は統合して、仮想的なコンピュータやネットワーク環境を生成し提供する技術である。仮想化技術にはホストのどの部分から仮想化するかによってホスト型、ハイパーバイザー型、コンテナ型に分けることができる。

2.1.1 ホスト型

ホスト型の仮想化は、ホストとなる OS 上 (以下、ホスト OS) に仮想化ソフトウェアをインストールし、仮想化ソフトウェア上で別の OS (以下、ゲスト OS) を稼働させる手法である (図 2.1)。仮想化ソフトウェアをホスト OS のアプリケーションの 1 つとして導入及び管理できるため、手軽に仮想化を実現することができる。しかし、ゲスト OS の処理はホスト OS を経由しなければならないため、オーバーヘッドが大きくなる。

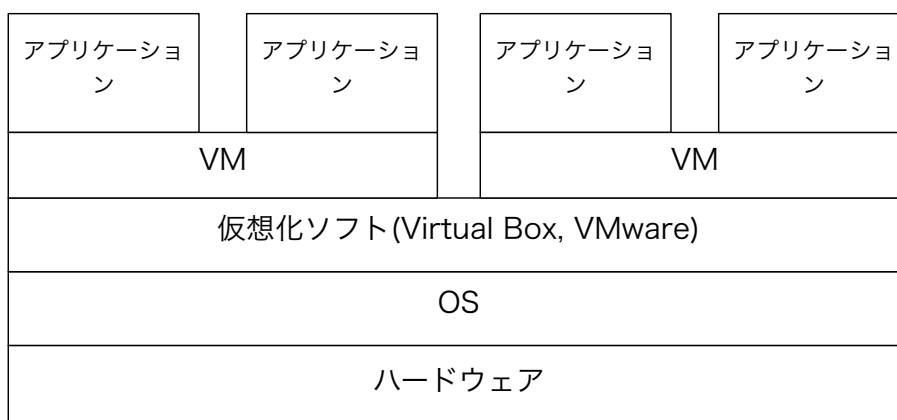


図 2.1: ホスト型

2.1.2 ハイパーバイザー型

ハイパーバイザー型の仮想化は、仮想化システムを直接ハードウェアにインストールし、ハイパーバイザー上で複数のゲスト OS を稼働させる手法である (図 2.2)。ハイパーバイザーが直接ハードウェアを管理するため仮想化によるオーバーヘッドを小さくすることで、リソースを効率的に利用することができる。

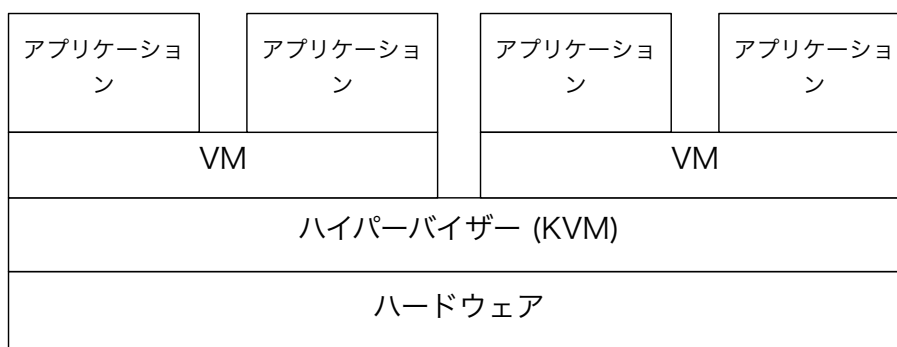


図 2.2: ハイパーバイザー型

2.1.3 コンテナ型

コンテナ型の仮想化は、OS レベルの仮想化技術を利用して複数のコンテナと呼ばれる独立空間を形成し、独立空間でアプリケーションをそれぞれ構築することができる手法である (図 2.3)。各コンテナはオペレーティングシステムカーネルによって独立したプロセスとして実行される。前述のホスト型やハイパーバイザー型と比べ、コンテナはゲスト OS を起動することなくアプリケーションを実行することができるため、リソース効率が良く処理が軽量である。

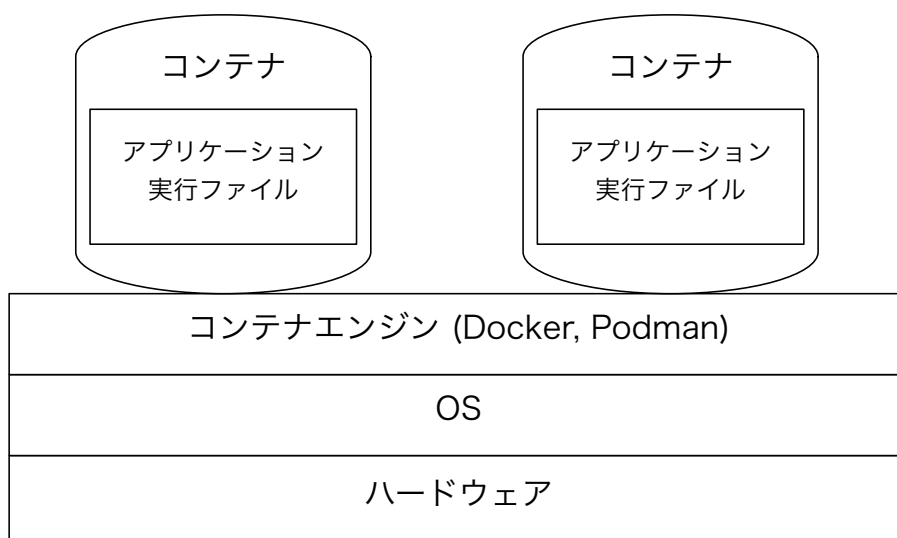


図 2.3: コンテナ型

2.2 KVM

KVM (Kernel-based Virtual Machine)[1] は Linux カーネル 2.6.20 以降に標準搭載されているハイパーバイザーである。KVM は Intel VT 及び AMD-V を含む x86 ハードウェア上の完全仮想化をサポートしている。KVM はハイパーバイザーと各仮想マシン間のレイヤーとして Virtio API を使用して、仮想マシンに準仮想化デバイスを提供する。これにより、仮想化によるオーバーヘッドを少なくできる。

2.3 Docker

Docker[2] は Docker 社が開発、提供する Linux 上で動作する隔離された Linux コンテナをデプロイ、実行するアプリケーションである。

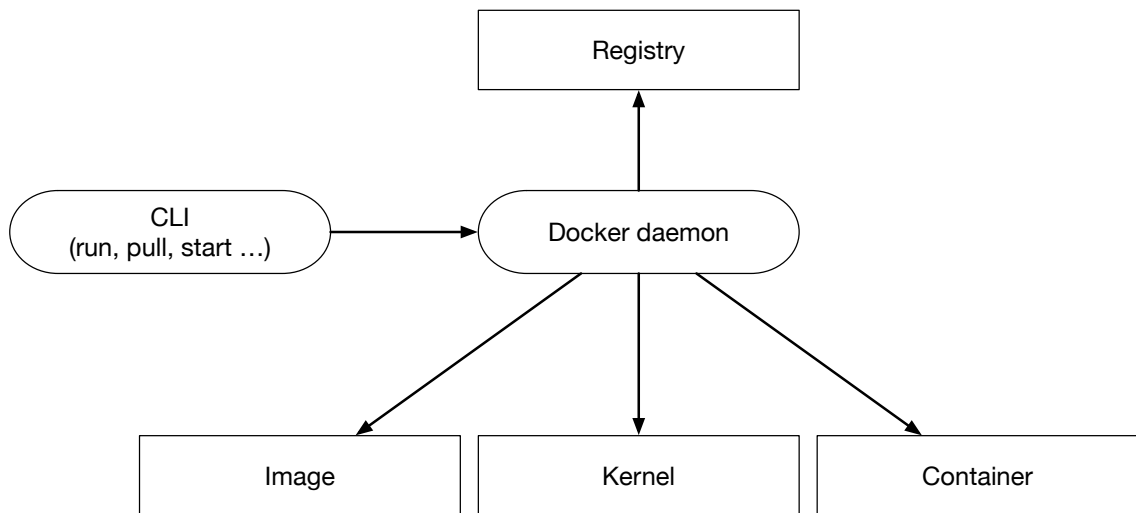
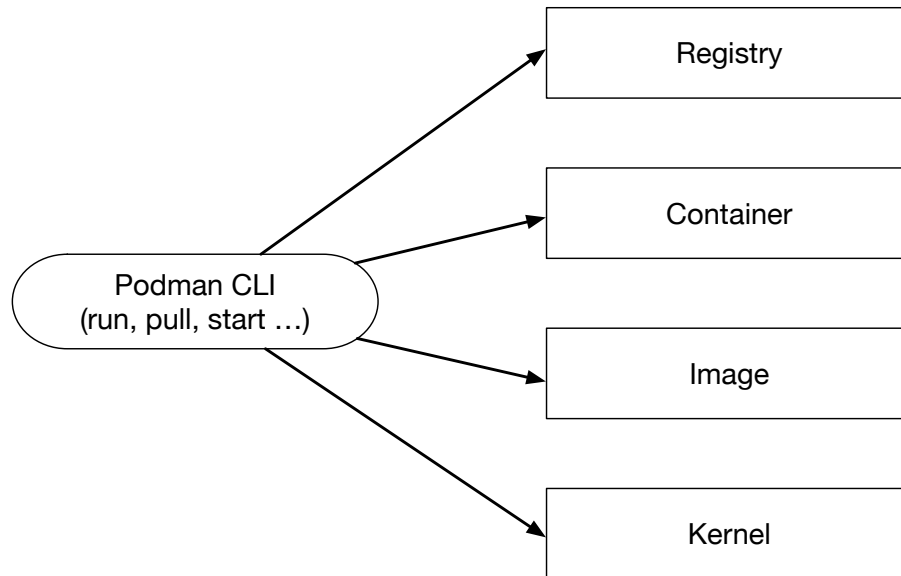


図 2.4: Docker

2.3.1 Docker Registry

2.4 Podman



☒ 2.5: Podman

2.5 Singularity

2.6 Ceph

2.7 Ansible

2.8 Slurm

2.9 GitLab

2.10 rsnapshot

2.11 Akatsuki

2.12 ie-virsh

第3章 教育計算機システムの構築

3.1 旧システム

3.2 新システム

3.2.1 Ceph

3.2.2 Podman

3.2.3 ie-podman

3.2.4 Singularity

3.2.5 Slurm

第4章 教育計算機システムの管理

本章では, 構築した教育計算機システムの管理の方法, 利用方法について述べる。

4.1 FileSystem の管理

4.2 Podman

4.2.1 ie-podman の利用方法

4.3 Singularity と Slurm を利用した演習

第5章 まとめ

5.1 今後の課題

参考文献

- [1] KVM, <https://www.linux-kvm.org/>, 2021/1/8.
- [2] Docker, <https://www.docker.com/>, 2020/9/11.
- [3] Docker Hub, <https://hub.docker.com/>, 2020/9/11.
- [4] Singularity, <https://sylabs.io/singularity/>, 2020/9/11.
- [5] 平良 太貴 and 河野 真治, OS 授業向けマルチユーザ VM 環境の構築, 研究報告システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS)(2014).
- [6] 城戸翔太, 安里悠矢, 城間政司, 長田智和, 谷口祐治, ”情報系学科における教育情報システムの構築及び運用管理に関する取り組み”, 研究報告インターネットと運用技術 (IOT)(2016).
- [7] Podman, <https://podman.io/>, 2021/1/4.

謝辞

感謝します。

2021年2月
宮平 賢